



岩井成昭 <日本> 「ダイアログ」
Iwai Shigeaki <Japan> Dialogue



カマル・アハメド <バングラデシュ> 「友情」
Kamal Ahmed <Bangladesh> Friendship



ナヴジョット・アルタフ <インド> 「もうひとつの実践方法—世界をいかに作るか」
Navjot Altaf <India> Modes of Parallel Practice: Ways of World Making



ジュアン・ホエ (莊輝) <中国>
「公元1997年3月26日河南省建六公司洛陽双源熱力公司電廠改建工程工作人員合影記念」
Zhuang Hui <China> The Staff of Shuangyuan Energy Source Company, March 26, 1997

第1回福岡トリエンナーレ参加作家 Participating artists in the 1st Fukuoka Triennale

国・地域名	出品作家 Participating Artists	国・地域名	出品作家 Participating Artists
バングラデシュ (Bangladesh)	カマル・アハメド (Kamal Ahmed) アショク・カルマカール (Ashoke Karmaker)	マレーシア (Malaysia)	ヌール・アジザン・ラーマン・バイマン (Noor Azizan Rahman Paiman) ウォン・ホイチョン (Wong Hoy Cheong) ファイズール・モハメド・ズルキフリ (Faizal Mohd. Zulkifli)
ブータン (Bhutan)	カルマ・レキ・ドージの共同制作 (Collaboration: Karma, Leki Dorji)	モンゴル (Mongolia)	セルオド・サラントツァツラル (Ser-Od Sarantsatsralt) ザグディン・ウセバイアー (Zagdin Usehbayar)
ブルネイ (Brunei)	ザイニン・マンソール (Pg. Zainin B. Pg. Mansor) マハディ・マトゼン (Mahaddi B. Hj. Matzain)	ミャンマー (Myanmar)	ポポ (Po Po) ニエン・チャン・スー (Nyein Chan Su) イェイ・ミン (M.P.P. Yei Myint)
カンボジア (Cambodia)	王立芸術大学美術学部共同制作 (Collaboration of the Faculty of Plastic Arts, Royal University of Fine Arts) スヴァーイ・ケン (Svay Ken)	ネパール (Nepal)	ウマ・サンカル・サー (Uma Shankar Shah) ショバ・ワグレー (Shobha Wagley)
中国 (China)	フェン・メンボ (馮夢波) (Feng Mengbo) シュ・ビン (徐冰) (Xu Bing) ジャン・ペイリー (張培力) (Zhang Peili) ジュアン・ホエ (莊輝) (Zhuang Hui)	パキスタン (Pakistan)	イフティカル・ダディ (Ifthikhar Dadi) ドゥリヤ・カジ、デイヴィッド・エルスワース、 イフティカル・ダディ、エリザベス・ダディの共同制作 (Joint project: Durriya Kazi, David Alesworth, Ifthikhar Dadi, Elizabeth Dadi)
インド (India)	ナヴジョット・アルタフ (Navjot Altaf) シェバ・チャッチ (Sheba Chhachhi) スボド・グプタ (Subodh Gupta) ジティッシュ・カラット (Jitish Kallat) スレンドラン・ナヤル (Surendran Nair)	フィリピン (Philippines)	アルフレッド・アキラザン (Alfredo Aquilizan) アルフレッド・エスキエリョ (Alfredo D. Esquillo, Jr.)
インドネシア (Indonesia)	クリシュナ・ムルティ (Krisna Murti) チュースン・スティアディカラ (Chusin Setyadikara)	シンガポール (Singapore)	アマンダ・ヘン (Amanda Heng) タン・ダウ (Tang Dawu)
日本 (Japan)	岩井成昭 (Iwai Shigeaki) 小沢剛 (Ozawa Tsuyoshi) 田浦律子 (Tahō Ritsuko)	スリランカ (Sri Lanka)	ティッサ・デ・アルウィス (Tissa de Alwis) チャンドラグプタ・テヌワラ (Chandragupta Tenuwara)
韓国 (Korea)	ブルバース (イム・チュンジェ) (Blupers/Rhie Joongjae) チェ・ジアン (Choi Jian) イウム (Ium/Rhee Yoom) イー・チョンモック (Lee Chunmok)	台湾 (Taiwan)	チェン・シュンチュ (陳順榮) (Chen Shunchu) リン・ミンホン (林明弘) (Michael Lin) ワン・ジュンジェ (王俊傑) (Wang Junjie) ウ・ティエンチャン (吳天章) (Wu Tienchang)
ラオス (Laos)	ドーンディ・カンタビレイ (Douangdy Khanthavilay) フオウヴァン・タマヴォン (Phouvanh Thammavong)	タイ (Thailand)	モンティエン・ブーン (Montien Boonma) マニット・スリワニチプーン (Manit Sriwanichpoom) モントリー・テオンソンバット (Montri Teomsombat) リクリット・ティラヴァニャ (Rirkrit Tiravanija)
		ベトナム (Vietnam)	レクワン・ハー (Le Quang Ha) グエン・ミン・タン (Nguyen Minh Thanh)

交流プログラム参加作家 Artists participating in the Art Exchange Programme

アショク・カルマカール Ashoke Karmaker (バングラデシュ Bangladesh)	田浦律子 Tahō Ritsuko (日本 Japan)	アルフレッド・アキラザン Alfredo Aquilizan (フィリピン Philippines)
マハディ・マトゼン Mahaddi B. Hj. Matzain (ブルネイ Brunei)	イウム Ium/Rhee Yoom (韓国 Korea)	アマンダ・ヘン Amanda Heng (シンガポール Singapore)
プロム・サン・アン Prom Sam An (カンボジア Cambodia)	ドーンディ・カンタビレイ Douangdy Khanthavilay (ラオス Laos)	チャンドラグプタ・テヌワラ Chandragupta Tenuwara (スリランカ Sri Lanka)
シュ・ビン (徐冰) Xu Bing (中国 China)	ヌール・アジザン・ラーマン・バイマン Noor Azizan Rahman Paiman (マレーシア Malaysia)	リン・ミンホン (林明弘) Michael Lin (台湾 Taiwan)
スボド・グプタ Subodh Gupta (インド India)	ザグディン・ウセバイアー Zagdin Usehbayar (モンゴル Mongolia)	リクリット・ティラヴァニャ Rirkrit Tiravanija (タイ Thailand)
クリシュナ・ムルティ Krisna Murti (インドネシア Indonesia)	ポポ Po Po (ミャンマー Myanmar)	グエン・ミン・タン Nguyen Minh Thanh (ベトナム Vietnam)
岩井成昭 Iwai Shigeaki (日本 Japan)	ウマ・サンカル・サー Uma Shankar Shah (ネパール Nepal)	ミナク・ツルク Mynak Tulku (ブータン Bhutan)
小沢剛 Ozawa Tsuyoshi (日本 Japan)	ドゥリヤ・カジ & デイヴィッド・エルスワース Durriya Kazi & David Alesworth (パキスタン Pakistan)	

※ブータンは協力キュレーターが参加
Co-curator is to participate from Bhutan.



交通手段 Access

市営地下鉄「博多」駅から3分「中洲川端」駅下車
市営地下鉄「福岡空港」駅から9分「中洲川端」駅下車
都市高速・呉服町ランプより約5分
都市高速・千代ランプより約7分
Subway Nakasu-Kawabata Station 3 mins from Hakata Station
9 mins from Fukuoka-Kuko Station
Urban Expressway 5 mins from Gofuku-machi Ramp
7 mins from Chiyo Ramp



〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 博多リバーライン リバーサイト7・8階
TEL 092-771-8600 (ハローダイヤル)
7th, 8th Floor, River Site, Hakata Riverain, 3-1 Shimokawabata-machi,
Hakata-ku, Fukuoka 812-0027, Japan
Design: Naoki Hirai

第1回福岡トリエンナーレ

The 5th Asian Art Show
The Commemorative Exhibition of the Inauguration of Fukuoka Asian Art Museum

The 1st Fukuoka Asian Art Triennale 1999

コミュニケーション希望への回路 ○ Communication: Channels for Hope
福岡アジア美術館開館記念展

会期 平成11年3月6日[土]—6月6日[日]
Sat 6 March - Sun 6 June 1999
会場 福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum
〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 博多リバーライン リバーサイト7・8階
7th, 8th Floor, River Site, Hakata Riverain, 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka 812-0027, Japan

「第1回福岡アジア美術トリエンナーレ1999」(第5回アジア美術展)

開館時間 10:00~20:00 (入館は19:30まで)
休館日 水曜日(ただし、5月5日(水)は開館し、6日(木)が休館)
観覧料 一般800円(500円) 高大生500円(300円) 小中生300円(200円)
4回券(一般2,000円、高大生1,200円、小中生800円)
()内は前売、団体料金(20人以上)
シルバー・身体障害者・精神障害者保健福祉・療育手帳所持者は前売料金

お問い合わせ 福岡アジア美術館
TEL 092-771-8600 (ハローダイヤル)

Open 10:00 - 20:00 (Last Admission 19:30)
Closed Wednesdays (Open on 5 May and closed on 6 May 1999)
Admission Tickets Adult 800 (500) yen [2,000 yen]
Student (High Schools/Colleges) 500 (300) yen [1,200 yen]
Student (Primary/Secondary Schools) 300 (200) yen [800 yen]
() Advance Ticket price / 14 Coupon Tickets price

For More Information Fukuoka Asian Art Museum
Tel 092 771 8600



ライブでダイナミックな

3年に1度、アジアアートの祭典、いよいよ開幕！

「第1回福岡トリエンナーレ」

平成11年3月6日、福岡市博多区下川端の博多リバーライン(リバーサイト7・8階)に福岡アジア美術館が創設されます。この誕生を記念した開館記念特別展が「第1回福岡トリエンナーレ」です。これは、過去4回福岡市美術館で5年ごとに開催されてきた「アジア美術展」を受け継ぎ、福岡アジア美術館の開館を契機に3年ごとに開催することとし、展覧会名も3年に1度という意味の「トリエンナーレ」に変更し、再出発するものです。

参加国・地域も前回(第4回アジア美術展)の18カ国にブータン、カンボジア、台湾を加え、21カ国・地域となり、55人の作家による絵画、彫刻、インスタレーションなど様々な作品が出品されます。さらに、通常の作品展示に加えて、より多くの人々にアジアの美術・文化を身近に感じてもらうため、会期中、参加各国・地域から作家を福岡に招き、美術館内だけでなく、広く館外でも公開制作、ワークショップ、パフォーマンス、ギャラリートークなどの多彩な美術交流プログラムを行います。



シュ・ビン(徐冰) <中国> 「お名前は？」
Xu Bing <China> Your Surname, Please?



ドーンディ・カンタビレイ <ラオス>
「シンセイ」
Douangdy Khanthavilay <Laos>
Xinxay



アルフレッド・エスキリョ <フィリピン>
「キアボ教会評議員たちの解剖」
Alfredo D. Esquillo, Jr. <Philippines>
Quiaponian Dissection I



グエン・ミン・タン <ベトナム> 「大脚日の夜」
Nguyen Minh Thanh <Vietnam> Watch Night



ウ・ティエンチャン(吳 天章) <台湾> 「春宵夢Ⅳ」
Wu Tienchang <Taiwan> Dreams of Past Era IV

あなたとだれか、だれかとあなたをつなぐアート

テーマは「コミュニケーション～希望への回路」

異なる文化、宗教、人種が複雑に絡まり合う社会の中で、それぞれの価値観、考えを持ち生きる人々。しかし、人々はそのにお互いを理解し、つなぐための有効な手段は見つけれない。こうした混沌とした「いま」を生きている人と人をつなぎ、創造的なコミュニケーションのための回路を切り開く。お互いが相手を理解、共感し、共に生きることへの希望を抱く。

「第1回福岡トリエンナーレ」では、このような人と人をつなぎ、独自のコミュニケーション手段となる広い意味での造形表現こそ、アジアの「いま」を生きる「現代美術」とであると考え、【参加・交流】【共同体】【都市】【メディア】という4つのキーワードで、選んだ作家・作品が参加・出品されます。ただし、それだけでは本展は完成しません。作品を並べ、作家を招くだけでは、まだ足りません。そこにあなたが参加し、だれかと出会い、新しい何かを生み出すことがこの展覧会の本当のねらいであり、そうしてこそ「第1回福岡トリエンナーレ」の完成となるのです。



アマンダ・ヘン <シンガポール> 「もうひとりの女」
Amanda Heng <Singapore> Another Woman



リクリット・ティラヴァニヤ <タイ> 「無題」
Rirkrit Tiravanija <Thailand> Untitled



ドゥリヤ・カジ <パキスタン> 「アート・キャラバン」
Durriza Kazi <Pakistan> Art Caravan



イユム <韓国> 「超能力者」
Ium <Korea> The Psychic



スレンドラン・ナイル <インド> 「死刑宣告」
Surendran Nair <India> Auto Da Fe

ひとことで言うと、超・交流型

福岡アジア美術館

作品を収集する、作品を展示する、こうした通常の美術館活動に加えて、福岡アジア美術館では、アジア各国からアーティストを招き、公開制作やワークショップ、ギャラリートークなど、市民交流のための様々なプログラムを実施します。活動範囲も美術館の中にとどまらず、街に飛び出し、たくさんの人を巻き込んでいきたいと思っています。もしかすると、あなたのまわりに作品が展示されるかもしれません。

こうした市民交流は「第1回福岡トリエンナーレ」ではもちろん、トリエンナーレ終了後も活動の大きな柱となります。たとえば、9月から来年2月までの6ヵ月間、シンガポールからアーティストを招き、福岡に滞在してもらい、市民とアーティストとの、より腹を据え、深く練られた交流プログラムを行う予定です。ご期待ください。きっと、アジアのアーティストがあなたに語りかける声が聞こえてくるはずです。

主催 第1回福岡トリエンナーレ実行委員会、福岡アジア美術館、NHK福岡放送局、西日本新聞社
後援 外務省、文化庁、参加各国駐日大使館、国際美術連盟日本国内委員会、日本美術家連盟、テレビ西日本
助成 国際交流基金、日本芸術文化振興会、(財)カメイ社会教育振興財団、(財)福岡文化財団
協賛 味の明太子ぶくや、NTT Do Co Mo九州、九州電力(株)、(株)NTTデータ、富士通株式会社
協力 松下電器、日本航空、パキスタン航空
参加国・地域 バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、台湾、タイ、ベトナム、日本 21カ国・地域

Organizer The Executive Committee of the 1st Fukuoka Asian Art Triennale, Fukuoka Asian Art Museum, NHK Fukuoka Broadcasting Center, The Nishinippon Shimbun
Supported by Ministry of Foreign Affairs, Agency for Cultural Affairs, Embassies concerned stationed in Japan, Japanese National Committee of The International Association of Art, Japanese Artists Association, The Television Nishinippon Corporation
Assisted by The Japan Foundation, Japan Arts Fund, Kamei Foundation, Fukuoka Culture Foundation
In cooperation with Fukuya Co., Ltd., NTT Kyushu Mobile Communications Network, Inc., Kyushu Electric Power Co., Inc., NTT Data, FUJITSU
Cooperated by Matsushita Electric Industrial Co., Ltd., Japan Airlines, Pakistan International Airlines
Participating countries and region Bangladesh, Bhutan, Brunei, Cambodia, China, India, Indonesia, Korea, Laos, Malaysia, Mongolia, Myanmar, Nepal, Pakistan, Philippines, Singapore, Sri Lanka, Taiwan, Thailand, Vietnam, Japan 21 countries and region